

【解説】

本問題は、要求を抽出する上で重要な、ステークホルダー識別という技法を適切に使用できるかを問う問題である。開発するソフトウェアに関係を持つ、様々なステークホルダーを識別することによって、それぞれのステークホルダーが持つ要求を漏れなく抽出できる。また、ステークホルダーが明示的に意識している要求だけではなく、意識していない要求も効果的に抽出することができる。要求が適切に抽出されないまま開発を進めると、設計の全面的なやり直しなど、時には致命的な手戻りが発生する。

ステークホルダーには、利用者、運用者、開発者、保守者、外部インターフェースを持つ当事者、規制団体など、様々な個人や組織がある。また、開発するソフトウェアに関わる、法律、規約、習慣などもステークホルダーである。

ステークホルダー間の利害は対立することがあるため、ステークホルダーを適切に識別することによって、ステークホルダー間の関係や、ソフトウェアに関与する度合いを調べ、ステークホルダーの影響度や重要度を分析していくことが重要である。発注者と受注者の間に見られるような直接的な利害対立だけではなく、様々なステークホルダーに関する多様な要求内容を適切に見極めることが大切である。例えば、近年、コンプライアンスの重要性が高まる中で、開発するソフトウェアに関わる法規を識別することも肝要である。

【解説】

問題の狙い：

複数機種のバリエーションがある中でのソフトウェア資産化と、その再利用促進のために組織的に実施すべき事項を問う問題である。その際、資産化によって十分な効果が見込めることを分析する必要がある。また、再利用計画を立案し、ソフトウェア資産の開発、維持、利用といったソフトウェア資産管理を行う必要がある。このような一連のプロセスを踏まえた上で、再利用促進のために必要な施策を問うている。

解答のポイント：

既存のソフトウェアを資産化して再利用するにあたっては、まずは、その施策により本当に効果が見込めるかどうかの評価が必要になる。ビジネス環境の変化、技術トレンドの動向、ソフトウェア資産を維持管理するための組織体制の確保など、様々な観点からの検討が求められる。

資産化対象の切り出しにあたっては、機種シリーズを踏まえた機能の可変性分析を行い、必要であれば機能の統廃合といった見直しを行う必要がある。現行機種が保有する機能をそのまま流用することを前提とすべきではない。

資産化の対象はソースコードだけではなく、関連ドキュメントやテスト項目、さらにはノウハウなども含まれる。こうした資産を組織的に蓄積することで、ソフトウェア資産の再利用が促進される。加えて、ソフトウェア資産を再利用しやすくするための技術的施策（製品アーキテクチャ、自動テスト環境など）も有効である。

ソフトウェア資産を決めたら終わりというものではなく、ソフトウェア資産の維持管理計画を立案し、再利用の効果を測定し評価することが求められる。期待通りの効果が得られていない場合には、問題を分析して原因を特定し、再利用促進のための組織的な施策を行う必要がある。問題文では「ソフトウェア資産の再利用を促進する」ことを問うており、ソフトウェア再利用に関わる技術的側面だけでなく、組織的・管理的側面も考察してもらいたい。

不十分な解答の特徴の例：

- ・ 共通部分の切り出し方法などソフトウェア資産化の方法に解答が偏っていて、再利用の促進に関する記述がないものは不十分な解答とした。
- ・ 問題文の文脈と関わりのないソフトウェア開発を対象にした、再利用に関する一般論を述べているものは不十分な解答とした。

以上